

## 平成25年度業務計画書

### 1. 業務の題目

課題研究 「科学リテラシーの向上に関する実践的研究」

### 2. 担当フェロー

星 元紀

### 3. 業務の目的（2年間）

国民の科学リテラシーの向上、すなわち「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書（2008, 科学技術振興調整費「科学技術の智プロジェクト」）の基本的な考え方を踏まえ、「21世紀を心豊かに生きるにあたり、『持続可能な民主的社会』を構築するために万人が共有してほしい」科学リテラシーの向上を図るために必要となる具体的施策の基盤を形成することを目的とする。このために、「生活の中のリスクにかかわる科学リテラシーの向上に関する調査・研究」を含む「国民の科学リテラシーの向上に関する調査・研究」を、次の基本方針に沿って行う。

#### <基本方針>

学校教育の枠を超えて生涯学習として位置づける

既存組織の自立的な活動を促す（教員をはじめ、各方面からの積極的な提案を求める）

科学の暫定性、不確実性、答えのない問題への対処につき特に配慮する

### 4. 当該年度における成果の目標及び業務の方法

#### ①プロジェクトの総合推進

昨年度に続き研究打合せ会を継続的に実施し、本ユニットの調査研究に必要な知見を深めることを目的とする。ユニットメンバーあるいは外部の専門家による講演と、それをめぐる自由討論を中核とし、その内容を③へ反映させる。

また各共同研究者によるリテラシーの検討内容等（②③）も踏まえ、国民の科学リテラシー向上の方策に関する具体案を策定する。WEB、アプリ等を活用した方策を検討中である。

#### ②勉強会の開催

①の研究打合せ会とは別に、サイエンスカフェ形式にて公開での勉強会を複数回開催し、その場で得られた知見・視点を③の報告書へ反映させることを目指す。

#### ③多様な観点からのリテラシーの検討

各共同研究者がそれぞれの観点（異文化コミュニケーション、生活リスク、科学教育、教育行政、科学コミュニケーション）よりリテラシーに関する調査・研究を行い、3.11後の現在における「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」の持つ意味を問い直す。多様な観点から「科学リテラシー」を問い直し、その位置づけを報告書にまとめる。